# 拍手をしよう！

校長　　髙田　晶子

１１月５日（土）にＰＴＡの環境整備部員の方々が、正門や生徒昇降口前の花壇を彩ってくれました。生徒や地域の通行する方々が、「あ、きれい。」とつぶやくのを耳にし、ほっこりとした気持ちになりました。ありがとうございました。

また、今秋は、地域の各公民館地区の文化祭等が開催されるなど、少しずつ文化的活動が再開し、心なしか地域の空気が活気づいてきたように感じます。学校にもその流れが届き、生徒たちも元気に生活しています。

さて、私たちは他人を賞賛する時によく“拍手”をして讃えていませんか。「おめでとう」「よかったよ」「すごいね」「素晴らしい」という言葉が聞こえてくるような時に、拍手を送っているのではないでしょうか。拍手をもらうと、とても嬉しい気持ちになります。

先日、ＴＶ番組「チコちゃんに叱られる」の中で、「人が拍手をするのはなぜか？」というテーマを取り上げていました。それは、「体に触りたいけど手が届かないから。」でした。これは、遠いところにいても思いを伝えたいということから、拍手という動作になり、手と手を合わせる動きで、触りたい欲求を解消してくれるのだそうです。人は、賞賛する時に、肩をポンポンと叩きながら「よかったよ、おめでとう。」と、賞賛の声をかける姿を思い出される方も多いと思います。コロナ禍で、人との距離感をとりましょうと言われてからその姿も少なくなってしまいましたが、人は相手に触れて讃えるということを行っていました。その思いを伝える方法が拍手であるということは、私たち人間の文化として素晴らしいものを持っているのだと思います。

元郷中学校では、拍手の仕方を伝えています。相手に気持ちの伝わる拍手として、「強く、早く、10 回」という３ポイントです。拍手をしたことがない人も、この方法でだんだん拍手の素晴らしさを実感できると思うのです。どのタイミングで、いつまですればいいのかなど、わからない人もいますが、この３ポイントでやってみると「おめでとうございます」と口ずさむのと同じ長さになるのです。

番組の中からもう一つ学んだことがあります。拍手の音は、高い音であり友好的な気持ちを伝えるトーンになるのだということです。身近な事では、電話に出る時に“よそゆきの声”になると言われた人もいるのではないでしょうか。普段の声よりトーンが上がるからです。赤ちゃんに話しかける時などにもトーンが上がります。敵ではないですよ、友好的ですよという気持ちの表れになるそうです。逆に、ブーイングの音や苦情、批判を言葉にする時は、低い音になるそうです。声の調子で相手の気持ちが伝わることも多いのですが、そういうことだったのでしょう。

教室の方から拍手の音が聞こえると、ついニコニコしてしまうのは私だけではないように思います。今学期後半も益々拍手鳴りやまぬ教育活動を展開していきたいと思います。